同　志　社　大　学

2015 年度　個人研究費研究経過・成果報告書

2016 年　　3 月　21　日提出

所　属	職　名	氏　名
政策学部	教授	岡　本　由　美　子

研　究　題　目	伝統的知識・技術を基盤とする産業の特徴と今後の発展可能性―ミャンマーを事例として
研　究　成　果 の　概　要	平成２７年度は以下、5 つのことを行った。 ①開発研究の中で、何故、イノベーション研究、とりわけ、イノベーション・システムの構築が重要であるのかについて、論文にまとめる。 岡本由美子（2016）「開発のためのイノベーション・システムの構築に向けて―グローバル化時代の産業政策の模索」（同志社大学大学院総合政策科学研究科編『総合政策科学の現在』晃洋書房）、262-275 ページ。 ②天然資源由来の産業化が途上国の発展のエンジンとなりうるのかどうか、についての再考論文の文献サーベイを行った。 ③ミャンマーにおいて現地調査を行い、地方開発という視点からはミャンマーの伝統産業が発展の起爆剤となる可能性を大いに秘めていることがわかった。バガンの大手漆器屋が存在するバガンの街のみならず、近郊の村にまで漆器製造が広がりを見せている。ミャンマーの漆器産業のユニークさと品質の向上によって、今後、ミャンマーの地方都市を支える１つの産業基盤となる可能性を確認できた。 ④さらに、コーヒーに代表されるように、ミャンマーの伝統的な方法で生産されてきた有機農業が、今後、ミャンマーの発展の起爆剤となる可能性も現地調査により確認できた。シャン州に Ywangan, という村が存在するが、規模の小さな小農家が集まっているにも関わらず、現在、国際的に注目を集めつつある。外国投資も盛んになってくる様相を呈している。同地方において、天然資源由来の産業化が達成できるのかどうか、非常に興味深いところである。 ⑤ミャンマーは伝統産業や伝統技術を依然活用した産業が多く残っている一方、現在、急速にグローバル経済に統合されつつある。そのグローバル経済への統合の光と影について、他の ASEAN 諸国も視野にいれながら分析を加え、“Opportunities and Challenges Facing the Asia Pacific Region in Linking Connectivity and Sustainable Development”と題した論文を発表した。